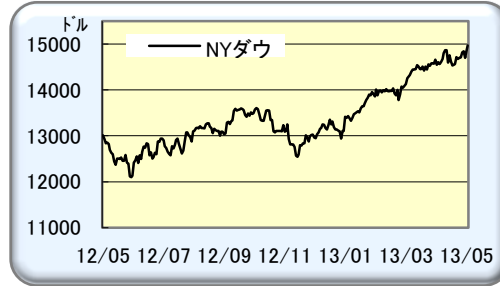


1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株>



<米国株>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

	単位	2012/12/28	2013/4/30	2013/5/2	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	10,395.18	13,860.86	13,694.04	13,983.87	2013/4/26	8,135.79	2011/11/25
NYダウ	ドル	12,938.11	14,839.80	14,831.58	15,009.59	2013/5/3	9,614.32	2010/7/2
円/ドル	円	85.96	97.45	97.94	99.95	2013/4/11	75.35	2011/10/31

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

GWの谷間となり売買が細る中、円安基調の一服を受けて弱含み。

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲190.09円 (▲1.37%)、TOPIXが▲7.91ポイント (▲0.68%) と連休の谷間となり売買が細る中、円安基調の一服を受けて弱含む展開となりました。業種別 (東証33業種) にみると、電気・ガス業、証券・商品先物取引業、水産・農林業など18業種が上昇する一方、輸送用機器、ゴム製品、鉄鋼など15業種が下落しました。GWの谷間となる30日の日本株市場は、先々週末に行われた日銀の金融政策決定会合でサプライズがなかったことを受けて円安基調が一服し、97円台まで円高ドル安が進んだことがマイナス要因となる一方、前日29日の欧米株市場がイタリアの新政権発足を受けて上昇したことがプラス要因となる中、横這い圏で推移しました。その後週末にかけては、①2日に行われるECB (欧州中央銀行) 定例政策委員会で利下げを行う可能性が高いこと、②米国において景気鈍化を示す経済指標の発表が続いたことを背景に円高圧力が強まったことなどから弱含む展開となりました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
5月8日	Wed	中国	貿易収支 (米ドル) (前年比)	4月 -8.8億ドル
5月9日	Thu	日本	景気先行CI指数	3月 97.6
			景気一致CI指数	3月 92.4
5月10日	Fri	中国	CPI (消費者物価指数) (前年比)	4月 2.1%
			国際収支 - 経常収支	3月 6374億円
		日本	国際収支 - 貿易収支	3月 -6770億円
			景気ウォッチャー調査 - 現状判断DI	4月 57.3
		国際	景気ウォッチャー調査 - 先行き判断DI	4月 57.5
			G8 (主要8カ国) 財務相・中央銀行総裁会議 (11日まで)	

決算発表予定 他	日本	決算発表 : 5/7 三井物産、三菱地所 5/8 丸紅、三菱商事、伊藤忠商事、富士重工業、トヨタ自動車、5/9 DeNA、ソニー、三井不動産 5/10 新日鐵住金、パナソニック、NTT
	米国	決算発表 : 5/7 ウォルト・ディズニー、ディレクTV 5/8 ニューズ・コープ、テスラ・モーターズ

当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 週末に向け14,000円台半ばを目指す可能性も ~

今週の日本株市場は、日本の連休中にECBが利下げを行ったことや、米国の雇用統計が市場予想を上回り、NYダウが一時15,000ドルを突破、ドル円も再び99円台まで円安が進んだことなどを背景に、日経平均は2008年6月以来の14,000円台を回復した後も、底堅い展開を予想しています。また、ドル円が100円をつけるようであれば、日経平均オプション5月限の権利行使価格で14,500円のコール (買う権利) のオープンインタレスト (未決済建玉残高) が積み上がっていることもあり、週末のSQ (特別清算指数) に向けては同水準を目指す可能性もあるのではないかとみています。経済指標では、中国で8日に発表される貿易収支、9日のCPI (消費者物価指数)、日本では10日の国際収支、景気ウォッチャー調査などが、会議日程では10日からのG8 (主要8カ国) 財務相・中央銀行総裁会議が重要と考えています。また、日本の決算発表では、7日に発表される三井物産、三菱地所、8日の三菱商事、トヨタ自動車、9日のソニー、10日の新日鐵住金、パナソニックなどに注目しています。